

代官山ヒルサイドテラスの都市の粒子

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2025年09月19日 ～2025年09月27日	日本	ローマ大学サビエンツァ	・環境システム学科、建築学専攻 ・学部2年生、学部3年生、学部4年生、修士1年生	(芝浦工業大学) 学生17名、学生バイト2名、 教員2名 (ローマ大学サビエンツァ) 学生20名、学生バイト1名、 教員2名	松下 希和(環境システム科)、山代 裕(建築学科)



図1 ワークショップを指導した日伊の教員とTAたち

本プロジェクトでは、日本を代表する建築家である槇文彦の建築理論とデザイン手法を講義および文献研究を通じて学び、代表作である代官山ヒルサイドテラスの空間構成と周辺環境について現地調査を行った。その成果を踏まえ、同建築群に隣接する敷地を対象として新たな建築デザインを提案した。提案は芝浦工業大学とローマ大学の学生による混成チームが英語を中心に協働して行い、建築デザインを共通言語として活発な議論と検討を重ねたことが大きな成果である。国際的な協働の有効性を確認できた点も意義深い成果である。



図2 ワークショップを終えて



図3 教員と学生のディスカッション



図4 調査提案対象となった代官山ヒルサイドテラスの街並み



図5 建築家・故 槇文彦のアトリエを訪ねる



図6 代官山の建築群から学び、その一部の建て替えを提案する



図7 調査やデザイン提案は両大学の混成チームで作成